

東日本大震災と原発事故からの復興に向けた取り組みや国際交流・協力団体の活動、外国出身県民の声など、福島県の「今」を多言語にてお伝えしています。

※本紙の翻訳版は、当協会 HP からダウンロードできます。



2011年5月に「がんばろう福島」のタイトルでスタートした「Fukushima NOW」は、今年度発行する3回をシリーズ化し福島県の復興と再生のあゆみについて特集します。シリーズ最後の今回はあんぼ柿の産地復活についてです。



復活・白銀の世界のあめ色果実

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故は放射性物質の影響を農地や農作物に及ぼし、福島県産の農林水産物は出荷自粛や風評被害に見舞われました。県内の農林水産物や加工品は放射性物質のモニタリング検査を受け、検査結果を公表し、食の安全・安心の確保に取り組んでいます。

震災の影響を受けた加工品のひとつにあんぼ柿が挙げられます。あんぼ柿は硫黄燻蒸により乾燥加工した中身が半生状態の干し柿で、今から90年以上前に伊達市梁川地区で誕生しました。伊達地域の農家は、福島



写真：“あめ色”のあんぼ柿

県から2011年と2012年の2年間にわたりあんぼ柿の加工自粛要請を受け、生産意欲の低下などから産地消滅の危機に直面しました。このため、産地を守り、安心・安全な生産を回復するために、農家や農協など関係者が一体となって樹木の放射性物質の除染、柿の汚染状況を把握するための全戸検査などさまざまな取り組みを行いました。こうした苦勞を経て、2013年にあんぼ柿の生産は加工再開モデル地区で再開し、現在も安全が確保された地域のみで出荷しています。



ふくしま未来農業協同組合
組合長 数又 清市さん

伊達市梁川町出身。1974年より、主に果樹の営農指導員として勤務。東日本大震災時には農家と行政機関の調整役として震災対応に当たる。現在は福島県の県北及び相馬地域の12市町村を管轄する広域JAの組合長です。

Q あんぼ柿の産地の歴史について教えてください。

あんぼ柿は1922年に旧梁川町五十沢で製法が確立し全国の産地へ普及しました。当時の伊達地域は養蚕がさかん。秋に養蚕、冬にあんぼ柿を生産すれば、雪の多い時期に出稼ぎをしなくても農業だけで収益をあげることができるので、伊達地域はあんぼ柿の産地になっていきました。

Q 福島第一原子力発電事故後、どのような対応をされたのですか？

どうすればあんぼ柿の加工を再開できるか－除染方法について農家の皆さんたちと話し合いを重ねました。話し合いでは厳しい言葉が飛んでくることも。あんぼ柿の産地をよみがえらせたい、その一心で何度も想いを伝えました。除染作業は農家、農協、個人生産者の皆さん全員が共同し、同じ目線で実施しました。その結果、伊達地域1市2町の約55万本の樹木を洗浄し、柿は約25万本もあることがわかりました。

Q あんぼ柿の現在の状況を教えてください。

2016年に加工施設の「あんぼ工房みらい」を新設し、高齢化が進んでいる生産者の作業負担の軽減が期待されています。海外については保存方法などの課題はありますが、ドバイへの輸出を検討中。あんぼ柿の産地は今、復活の道を歩んでいます。

東日本大震災・原子力災害から思うこと 徐 銓軼さん

(中国・上海出身・三島町在住)

地域おこし協力隊として活動している徐銓軼さんは、国交正常化後の国費留学1期生の伯母などの影響で、幼い頃から日本を身近に感じていました。立命館大学を卒業後、中国の福島県上海事務所就職し県産品輸入関係を担当していた徐さんは、日本で東日本大震災を経験します。2013年にJETプログラムの国際交流員として福島県国際課で5年間勤務し、正確な情報発信に尽力した徐さんにお話をうかがいました。

(ZOOM インタビュー：2020年12月16日)



- 徐さんが体験した東日本大震災について教えてください。
- 東日本大震災後、福島県で働こうと思ったきっかけについて教えてください。
- これからの福島県の復興について、どのように思いますか？

2011年3月11日は旅行で静岡県にいました。前日に中国から福島県に到着し、1週間くらいの日本滞在を予定していました。東京での計画停電で空港までたどり着かず、予定の便に乗ることができませんでした。計画停電は初めての経験。日本で7年も生活していたのに「運転見合わせ」という言葉の正確な意味がわかりませんでした。

震災後は福島県の資料をもとに現状を説明する仕事が増えました。福島県の現状を知りたくてプライベートで被災地を訪れ、被災者の声を聞き、力になりたいと思うようになりました。来県後は復興の姿を知ってもらうため、国内外の友人を呼んで県内を案内したことも。また、自分と同じように、風評払拭を発信する熱い気持ちを持った福島県在住外国人に出会えたことは嬉しかったです。

残念ながら国外だけではなく国内でも福島県に対する風評は残っています。福島県内の復興の様子をSNSで更新しつづけることが重要だと思います。また、自分が福島県に住んで生活することは、安全・安心の発信につながると考えています。雪の多い三島町に住んで3年になりますが、自然とのつきあい方は「賢く要領よく」が大切。良好な関係を築くことで生活は楽しくなります。福島県とはこれからも長くつきあっていきたいですね。

Scenes of Fukushima

新型コロナウイルス相談ホットライン

福島県では、県内在住の外国人を対象に、新型コロナウイルスのことを電話で相談できるホットラインを開設しました。19か国語で24時間対応しています。相談料も電話代も無料です。心配なことがある方は電話をしてください。

電話番号：0120-992-860

対応言語：英語、中国語、ベトナム語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、韓国・朝鮮語、ネパール語、タイ語、インドネシア語、ミャンマー語、クメール語、マレー語、モンゴル語、ロシア語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、シンハラ語

※無料通信アプリ「LINE」からも電話相談は可能です。LINE アカウントのQRコード→



多言語による復興情報「ふくしま復興ステーション」

福島県の復興状況の最新データや食の安全・安心に向けた取り組み、福島を応援する方々の活動など10言語で発信しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/>

- 外国人住民のための相談窓口 -

11 国語で対応しています

日本語・英語・中国語・韓国語・タガログ語・ポルトガル語・ベトナム語・タイ語、ネパール語・インドネシア語、スペイン語

毎週火曜日～土曜日 9:00～17:15

☎024-524-1316 ✉ask@worldvillage.org (相談専用)

発行者

(公財) 福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町 2-1 福島県庁舟場町分館 2 階

☎ 024-524-1315 📠 024-521-8308

✉ info@worldvillage.org

🌐 <http://www.worldvillage.org>

Facebook <https://www.facebook.com/fiainfo>

Twitter https://twitter.com/fia_info

◇お知らせ◇

皆さまに支えられ発行してまいりました「Fukushima NOW」は今号が最終号となります。今まで応援していただきましてありがとうございました。

